

---

# ホワイトday ~ 苦いクッキーは幸せの味 ~

彩瀬姫

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ホワइटdayの苦いクッキーは幸せの味

### 【Nコード】

N3856G

### 【作者名】

彩瀬姫

### 【あらすじ】

B.L。ホワइटデー。俺の恋人 響がクッキーを作ってくれたんだけど、素直に受けとけれず……。 「響×大翔シリーズ」第二弾  
！！

(前書き)

この話はボーイズラブです。苦手な方はご注意ください。

「大翔<sup>ちゅうせう</sup>みてみてー！クッキー焼いたー！クッキーー！！」  
今日はホワイトデー。俺の恋人　　響<sup>ひびき</sup>はクッキー片手にはしゃいでいる。可愛い喜び方をみて、俺　　大翔の頬に笑顔と苦笑を滲ませる。

ここが俺の家だからいいものの、外でこんな姿は見せたくない。  
俺がこんなに独占欲が強い男だと響と出会うまで知らなかった。

独占欲が強すぎて響を束縛してしまいそうになるから、気持ちを抑えようとして、

「俺は甘いものが駄目なんだって」

つい、そっけない言い方になってしまふ。俺が甘いものが嫌いなのは嘘じゃないから罪悪感はないけど、素直に　　有難うって言いたいんだ。

「じゃじゃーんーんーん！！今回は甘くないクッキーを作ってみました！」

「はい？」

響が手にしているクッキーを見た。見た目は普通のクッキーだが……。

「だーかーらー！甘くないクッキーだつてー！！」  
と言い張る。

それはどんなもので……。甘くないクッキーってまさか！？  
「塩を入れた、とかじゃないだろうな？」

響なら大いにあり得る。なんといつても天然だからな。

「塩が入ったスイーツ、今人気だからそれも有りだよ……。塩キヤラメルとか塩チョコとか。そして塩クッキー？」

響は納得したように頷くが、俺はもう一度聞きなおす。

「そう言うのじゃなくて……。間違つて、砂糖の代わりに塩入れて

ないよな？」

それを聞いた響は頬をぷーっと膨らませた。

「酷い。大翔……。僕、そんなに信用ない？」

拗ねているような仕草だが、響はすぐく落ち込んでしまったらしい。どうにか機嫌を取るうと試みる。

「そうじゃなくて。その……塩が沢山入ったクッキーを味見した響が心配だなと思ってだなあ……」

言い訳っぽくなってしまった。

それは逆効果だったのか、響は下を向いてしまった。

……。ヤバイ。

俺は直感的にそう思った。

下を向いている時の響は相当ショック受けてるとき、悲しい時だけだ。その仕草を見てしまえば断れるものも断れなくなってしまっしょうがないと俺は頭を掻<sup>か</sup>く。

「わかった。クッキー食べる」

ちよつと偉そうに言ってしまったが、響は嬉しいそうに目をキラキラと輝かせる。

「やったー！クッキー食べてくるんだ！はい、これあ〜ん」

響はクッキーを俺の口元まで持ってくる。

「自分で食べるからいい」

俺はそう言つて、響が作ったクッキーを奪い取り、ササツと口に入れてしまった。

そんな俺を怒らず、響がニコニコ俺を見ている。

「美味しい？」

クッキーの感想を言った。

「……美味しい」

「本当に？」

上目づかいで再度訊いてくる響に、コクコクと頷く。

参った……。

俺は心の中で両手を上げた。

可愛すぎて、つい襲いたくなってしまうのだ。

ああ、駄目だ。駄目だ！！

そんな葛藤をしていると、響は突然正面から俺の胸に抱きついてきた。

「何だよ」

「嬉しいなあ」と思っ

響は俺の胸に頬を摺り寄せてくる。

本当は焦げてて苦かったけど、響が俺のために作ってくれたと思えば気にならなかった。

『愛情たっぷりの苦いクッキー』

それは俺にとって、幸せの味のするクッキーだ。

(後書き)

こんにちは、彩瀬姫です。

この話はバレンタインday、僕と俺の甘いチョコの続きです。  
今回は大翔視点で書いてみました。

と言うか大翔、響にバレンタインデーもホワイトデーにも、何もあげないじゃん!!  
って感じです。

大翔も何か響にしてあげればいいのに……。何か、ね？

遅くなりましたが、読んで頂き有難うございます。

感想などお待ちしております!!

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3856g/>

---

ホワイトday～ 苦いクッキーは幸せの味～

2010年10月20日16時32分発行